

株式会社ルネッサ DXの取組

2025/10/9 改訂

<株式会社ルネッサ>

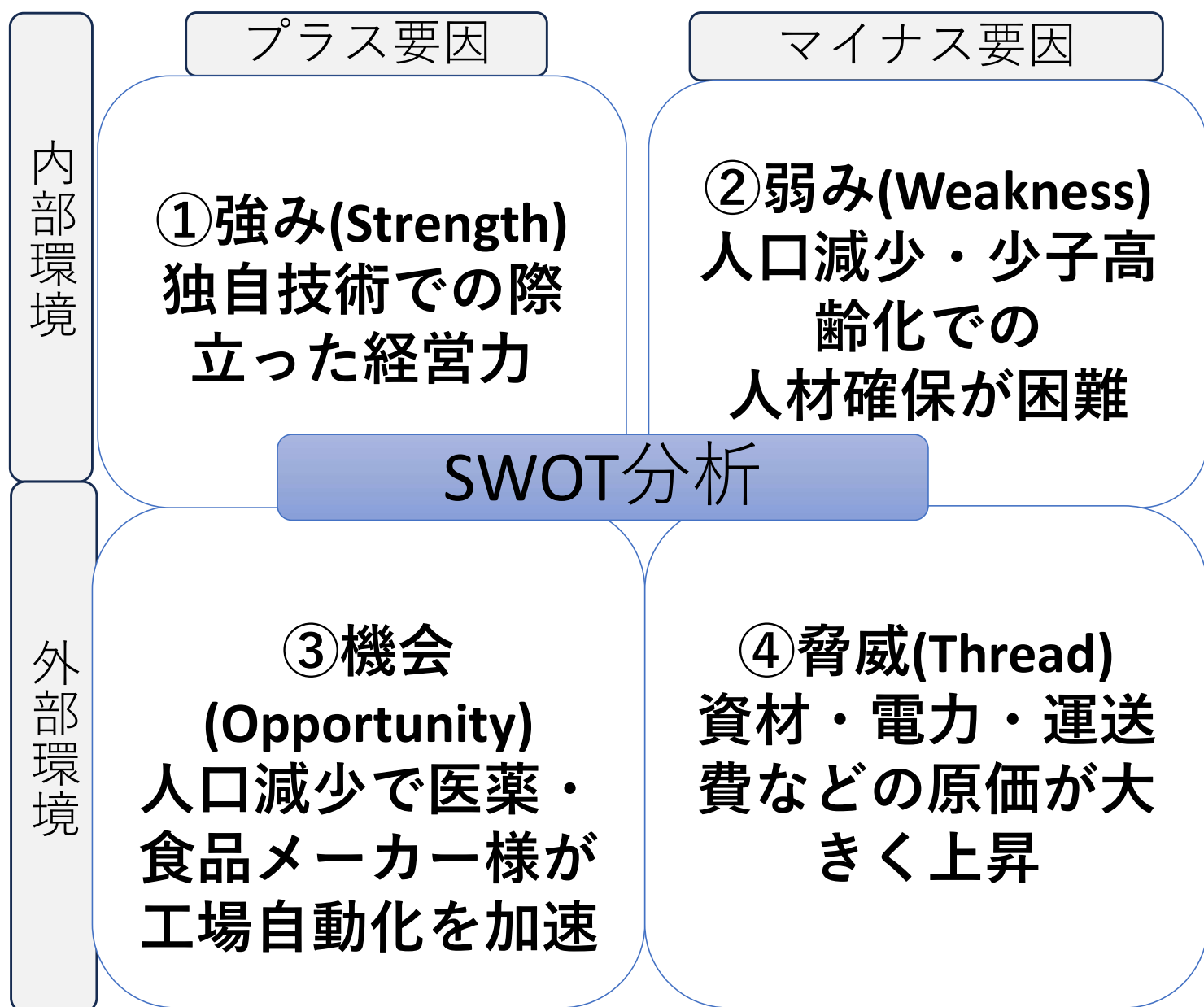
福井県坂井市三国町に本社を置く製造工場向け搬送製造メーカーです。
食品や医薬品製造メーカー様に対し生産ラインにおける自動搬送装置を提供しております。



弊社が製造する自動搬送設備を導入する、国内の医薬品・食品メーカー様は少子高齢化と厳しい工場環境下での作業も相まって、人材が集まらずひいては工場運営が立ちいかなる状況にあるところがあります。
そんな中、弊社の自動搬送装置の導入は医薬品・食品メーカー様にとって待ったなしの生産基盤と成っています。

< 当社の置かれた環境 >

医薬品・食品製造工場における自動搬送装置を手掛ける当社の置かれた環境



内部環境

①強み(Strength)

唯一無二の独自技術で他の追従を許さない経営力があります。

②弱み(Weakness)

首都一極集中や人口減少による人材確保に悪戦苦闘する現状があります。

外部環境

③機会(Opportunity)

近年の人口減少や少子高齢化が原因で顧客である医薬品・食品製造メーカー様が工場の自動化に積極的に取り組む環境にあります。

④脅威(Thread)

昨今の物価上昇に代表される、資材、部品、電力、運送費など生産に関わる原価の上昇が際立っている現状があります。

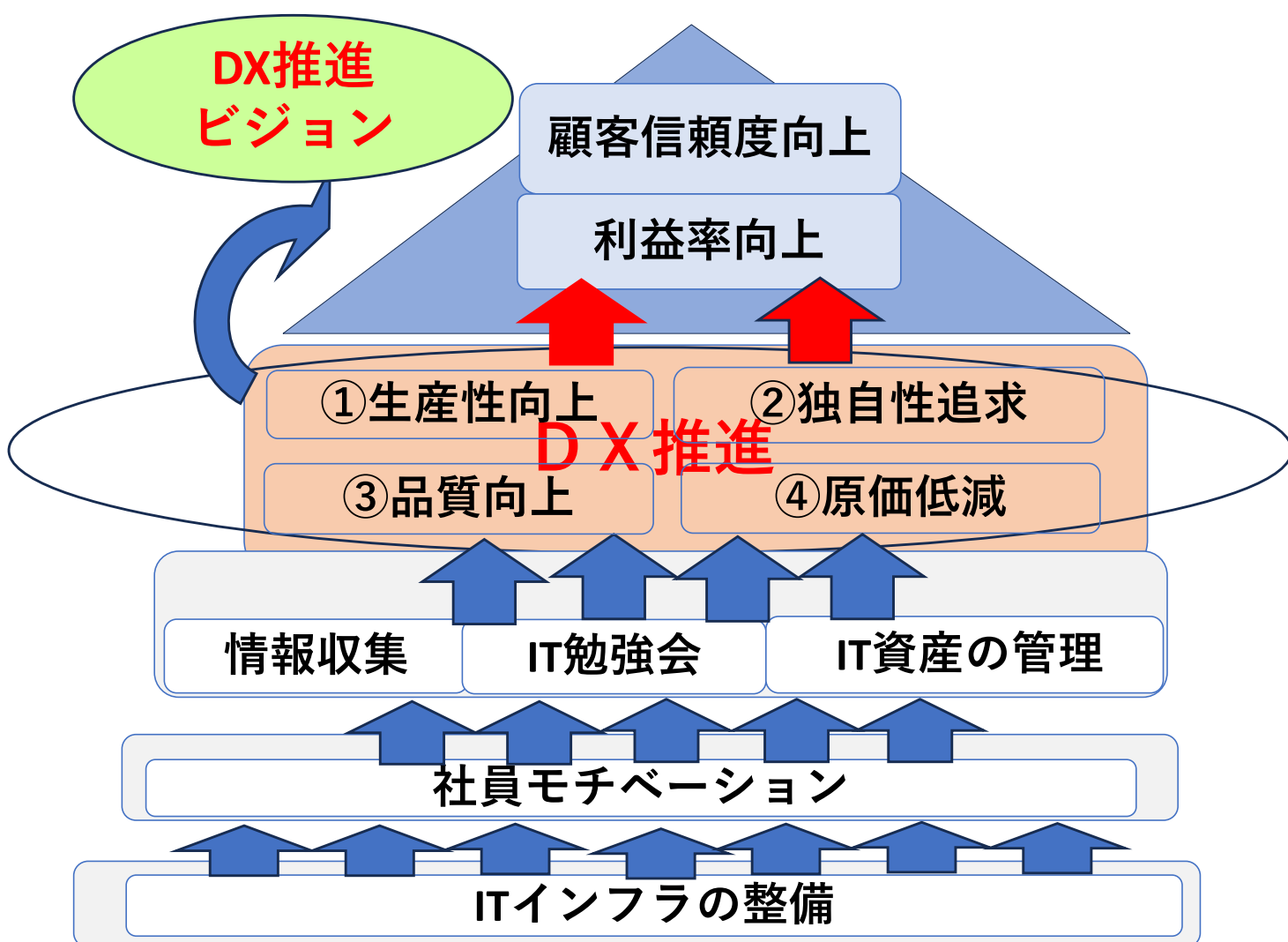
このような環境下にあって当社はDXを積極的に推進し強みを伸ばし、弱みを極小化し、機会を逃さず、脅威の影響を受けにくくすることが肝と考えています。

<当社のDX推進ビジョン>

DXを推進し

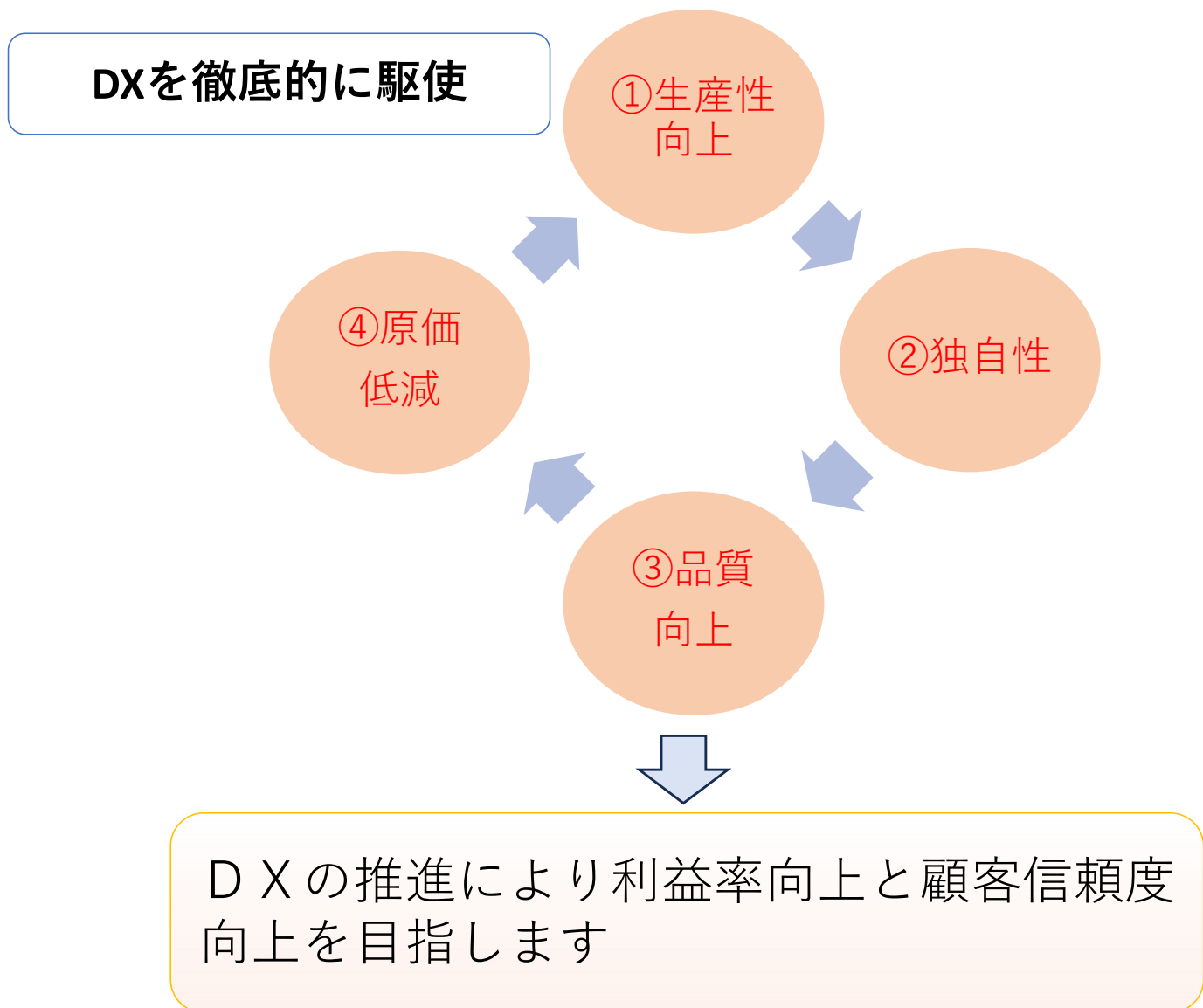
- ①生産性向上
- ②独自性追求
- ③品質向上
- ④原価低減

をもって利益率向上と顧客信頼度向上を目指すことが当社の
DX推進のビジョンと考えています。



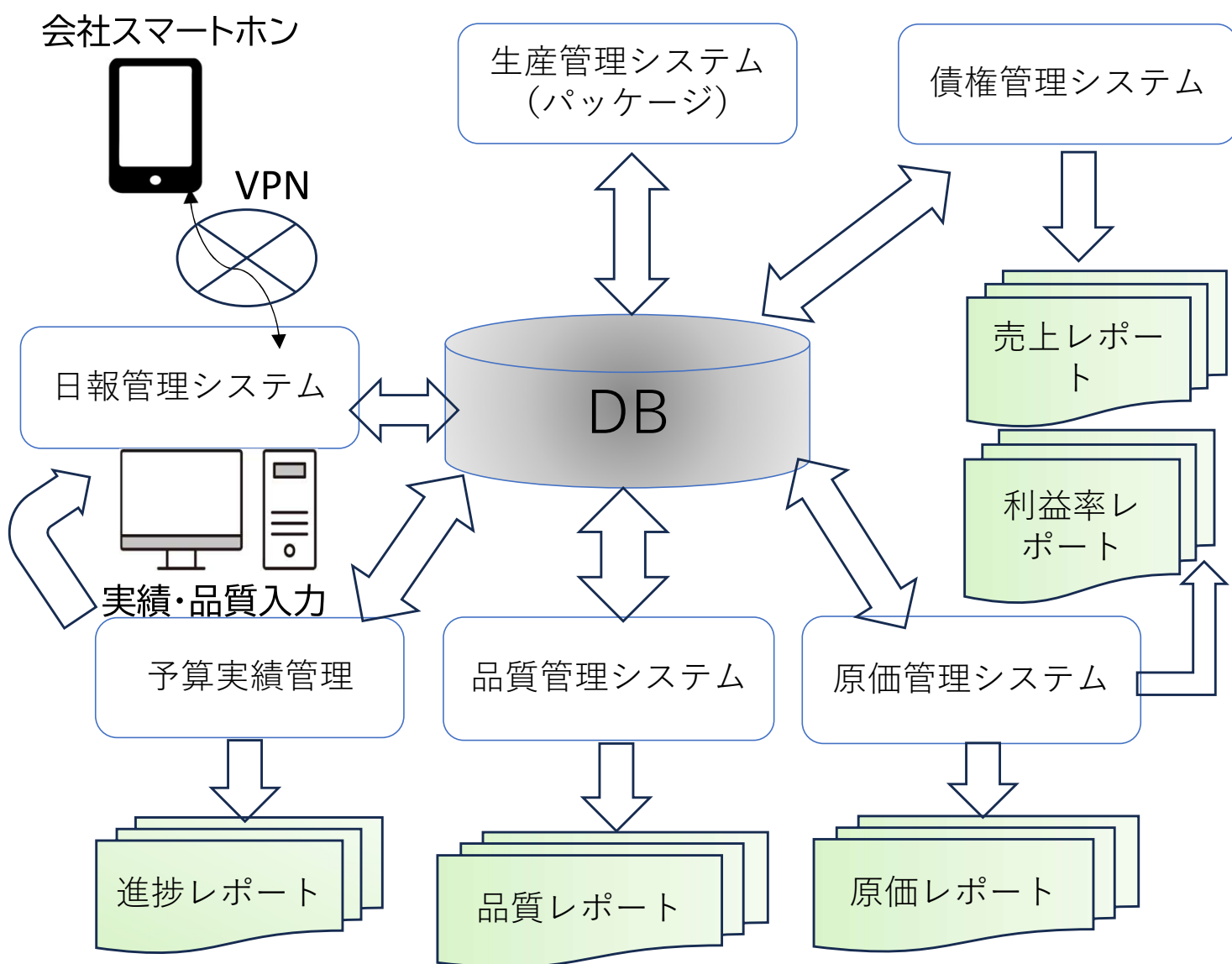
<我々が具体的に取り組む事>

当社ビジョンの①から④はそれぞれ別の切り口ですが大いに関係したファクターとなっています。品質が向上すれば原価が抑えられ、生産性も向上します。生産性が向上すれば、品質向上と原価低減、さらに独自性があれば、その両指標で利益率向上と顧客信頼度向上が望めると考えています。



当社では各指標の値を上げる取り組みとしてDXを活用した以下のシステムを構築しています。

各システムで発生したリアルタイムデータは一元化したデータベースに登録されています。そこから取り出すデータは発生元のシステムが違ってても有機的に連携し、連携することで価値が何倍にもなったデータとして取り出すことができます。このシステムは2023年11月から稼働しており①利益率向上②顧客信頼度向上に大いに寄与しています。



<顧客信頼度向上に向けた更なる取り組み>

顧客信頼度向上に向けたさらなる仕組みとして当社では企業版電子カルテシステムを構築中です。

当社の営業担当や設計担当は往々にして納入済の顧客から保守部品の見積もり依頼や装置の部品改造の依頼や操作・機能に関する問い合わせ、更に障害発生への対応といった緊急的な依頼を受けることが多く、窓口担当者は本来の営業業務や設計業務の時間を削って顧客対応に当たっています。

この課題に対しDXによる仕組みを構築し解決できないかと全社的な機運が高まりました。

情報システム課が旗振り役となり全社を巻き込んで企業版電子カルテシステムの構築を目指すことになりました。2024/5から短期間での開発を行うためアジャイル手法により開発を進めています。

電子カルテ検索画面の例

電子カルテシステムの主な機能

①見積検索—その顧客に過去にどんな見積を出したか、受注したか、いつ出荷したか、見積が部品なのか工事なのか

②問い合わせ機能—その顧客からどんな問い合わせを受けたのか、質問なのか、クレームなのか、誰が、いつ、どんな対応をしたのか

③障害検索—その顧客、あるいは全顧客横断で障害の分類を詳細に絞り込み、あるいはエラーコードで検索し原因とその時の対策を検索する、顧客横断検索のため別顧客でも類似障害を検索できるものとしています。

初めての障害であっても他顧客の情報から迅速な対策が可能となります。

このシステムでは障害時の写真や動画も参照することができます。

これにより、顧客のシステム障害復旧までの時間を短縮し**顧客信頼度の向上に貢献しています。**

障害検索画面の例



電子カルテ システム処理フロー

2024/12/03 Ver.1.02

①障害のキーワードを入力

検索

検索条件

検索区分

検索結果

障害番号	区分	発生日時	発生場所	発生原因	発生状況	発生場所	発生状況	発生場所	発生状況
0000	?	Lab NMSYUKKA							
00000	?	Lab NMSETUBI							
00000	?	Lab NMSEIBAN							

②HITした事例を一覧表示

③一覧から詳細を表示
ここに対策が表示される

登録番号 Label12 納入先 会社CD Label16

区分 Label13 設備 設備CD Label17

状態 Label14

発生日時 Label15

関連装置 Label132

対象装置

件名 Label21

内容 Label22

④動画や写真の表示

ファイル F5

印刷 F4

戻る F6

<DX内製化DNAの醸成>

当社のDXに対するこだわりとして内製化による開発があります。

当社ではDX開発(要求分析～導入テスト)をすべて内製で行っています。ある部門からプロジェクト発足のニーズがあり、社長決裁の後プロジェクトが発足、ニーズ部門と情報システム課が一体となってプロジェクトを進めます。徹底して内製化にこだわり、それが当社のDNAとして未来永劫に続く活動をしています。



各開発工程で社内ユーザー・情報システム課一体となった開発が進められています。

DX内製化の一例

機械設計部門の機械図面総合管理システム開発

このプロジェクトは機械設計部長－機械設計担当者－情報システム課担当で2024年3月～9月の間、要求分析（基本設計）～概要設計までを実施しました。

現在は2025/11本稼働を目指して詳細設計以降の工程でシステム開発を行っています。

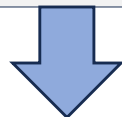
機械設計部の課題

機械設計部長年の悩み。部品表リストと実際の装置の部品が違っていることがある。



原因

部品表がEXCELで管理されており、入力漏れや同じ部品が複数の別EXCELにも存在する。
EXCELによる基幹業務摘要の限界を感じていた。



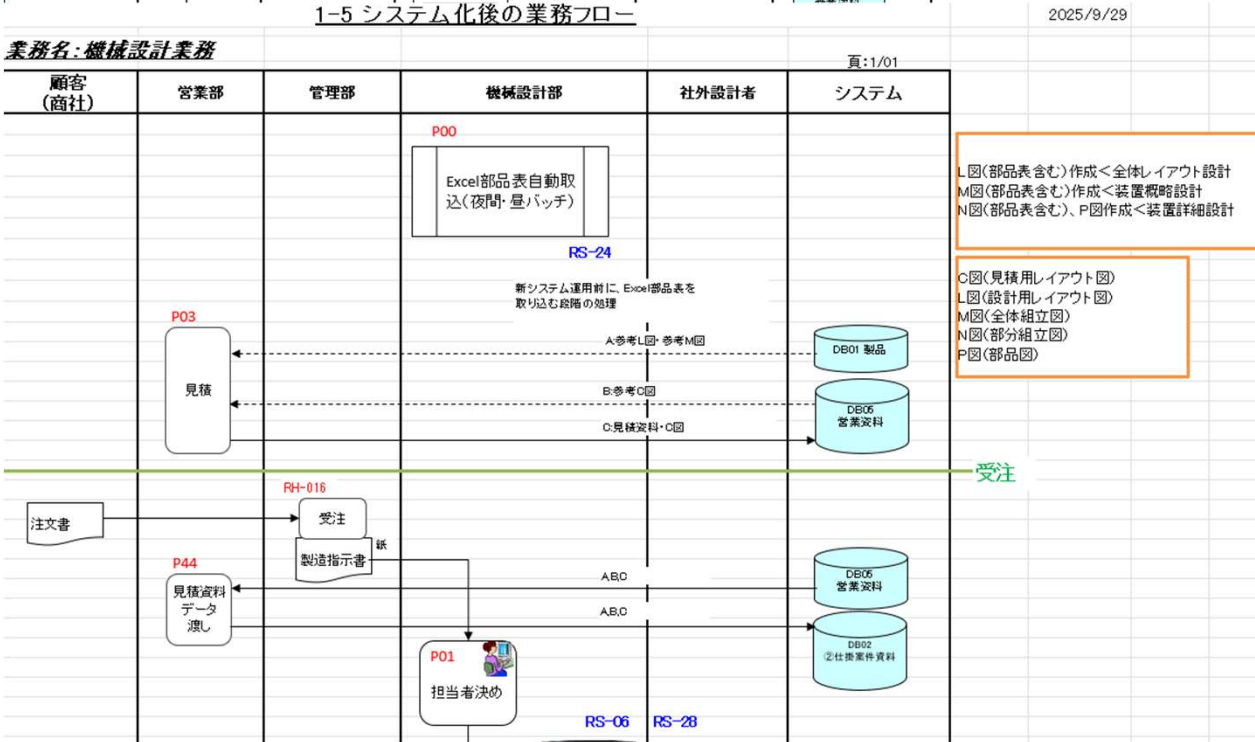
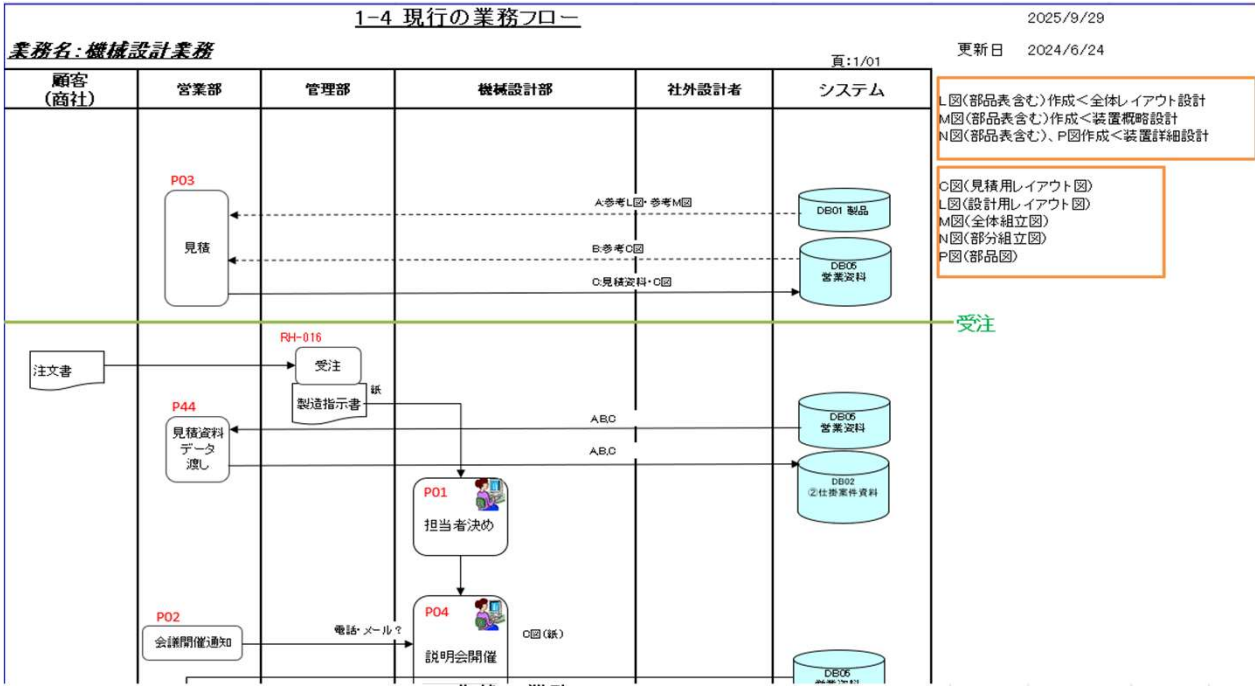
解決策

部品表を全てデータベースに格納しユニークKEYによる一意化を実現することで部品表の信憑性を確保する。

要求仕様の成果物の例

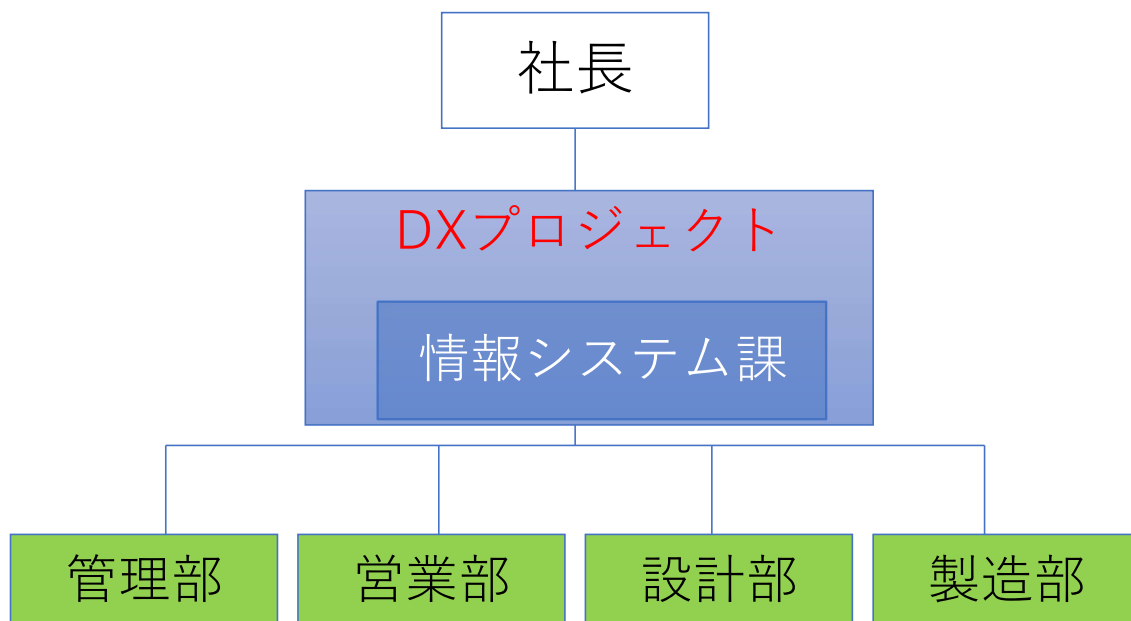
(現行フロー図とシステム化後のフロー図) この例は要件定義の成果物で現行の業務フローとシステム化後の業務フローの例です。

機械設計部門の機械図面総合管理システム



<体制>

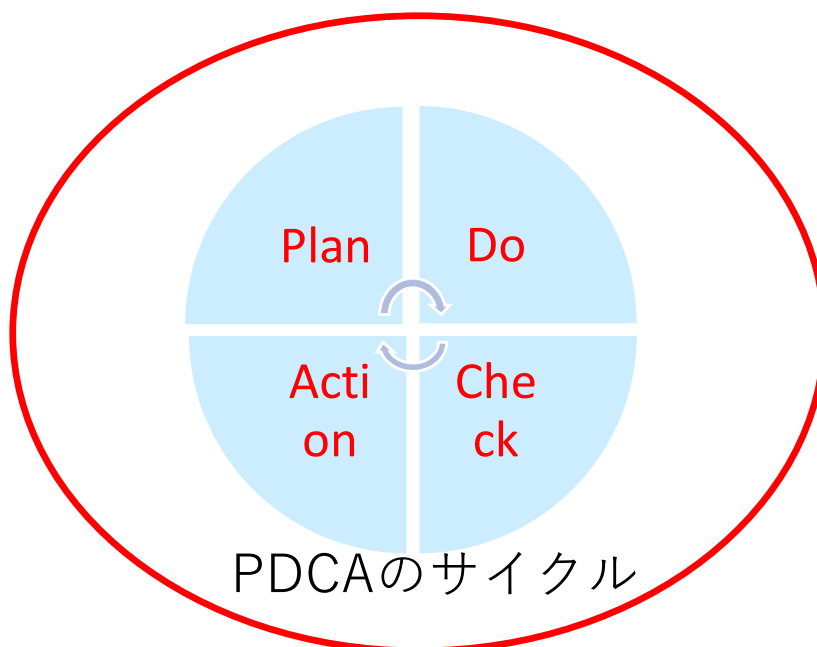
当社がDXを推進する体制は下図の通り、情報システム部門だけではなく、社長以下全社員が都度プロジェクトが発足する度、DXプロジェクト推進に当たっています。



DX進捗会議(月1回)

DXプロジェクトの進捗をプロジェクト内で共有し、弊社社長に評価をいただいています。

PDCAの進度、方向、効果の見極めをしながら、時にはプロジェクトの見直しを行います。



< 戦略達成状況に掛かる指標 >

戦略達成に掛かる指標として2025年から2027年に掛けて下記スキルマップの各指標について要員数の確保を目指します。

列左：2025 列右：2027

ランク 指標	A		B		C		D	
OS Windows	1	3	2					
OS Windows Server	1		2					
OS Linux		1		1		1		
NetWork LAN		1	1	2	2			
NetWork InterNet		1	3	2				
セキュリティー		2	3	1				
BACKUP Cloud含む		2	2	1				
DataBase構築		2	2	1	1			
DataBaseチューニング		2		1				
システム開発 要件定義	1	2	2	1	1			
システム開発 概要設計	1	2		1				
システム開発 詳細設計	1	3						
システム開発 プログラミング		2		1				
言語 Visual Basic		2	2	1			1	
言語 C++		1		2	1		2	
言語 PYTHON		1		2	1		2	
業務スキル 販売管理	1	2	1	1		1	1	
業務スキル 生産管理	1	2		1	1		1	

ランクA:十分なスキルを有し指導ができる ランクB:スキルを有しているが充分とは言えない
 ランクC:触ったことがある、初心者 ランクD:スキル無し

< 教育 >

情報リテラシー解消の為、定期的に情報システム課が中心となってベンダーやIT業界動向から収集したトレンド情報を元に勉強会を実施しています。

勉強会の内容

1) コンピュータの仕組み

- ①ハードウェア ②ソフトウェア ③ネットワーク
- ④インターネット ⑤セキュリティ ⑥データベース

2) 業務システムの概要

- ①生産管理システムとは ②債権管理システムとは
- ③勤怠管理システムとは ④電帳帳簿保存法システムとは
- ⑤会計システムとは ⑥給与システムとは
- ⑦人事システムとは ⑧予実管理システムとは
- ⑨原価管理システムとは ⑩品質管理システムとは

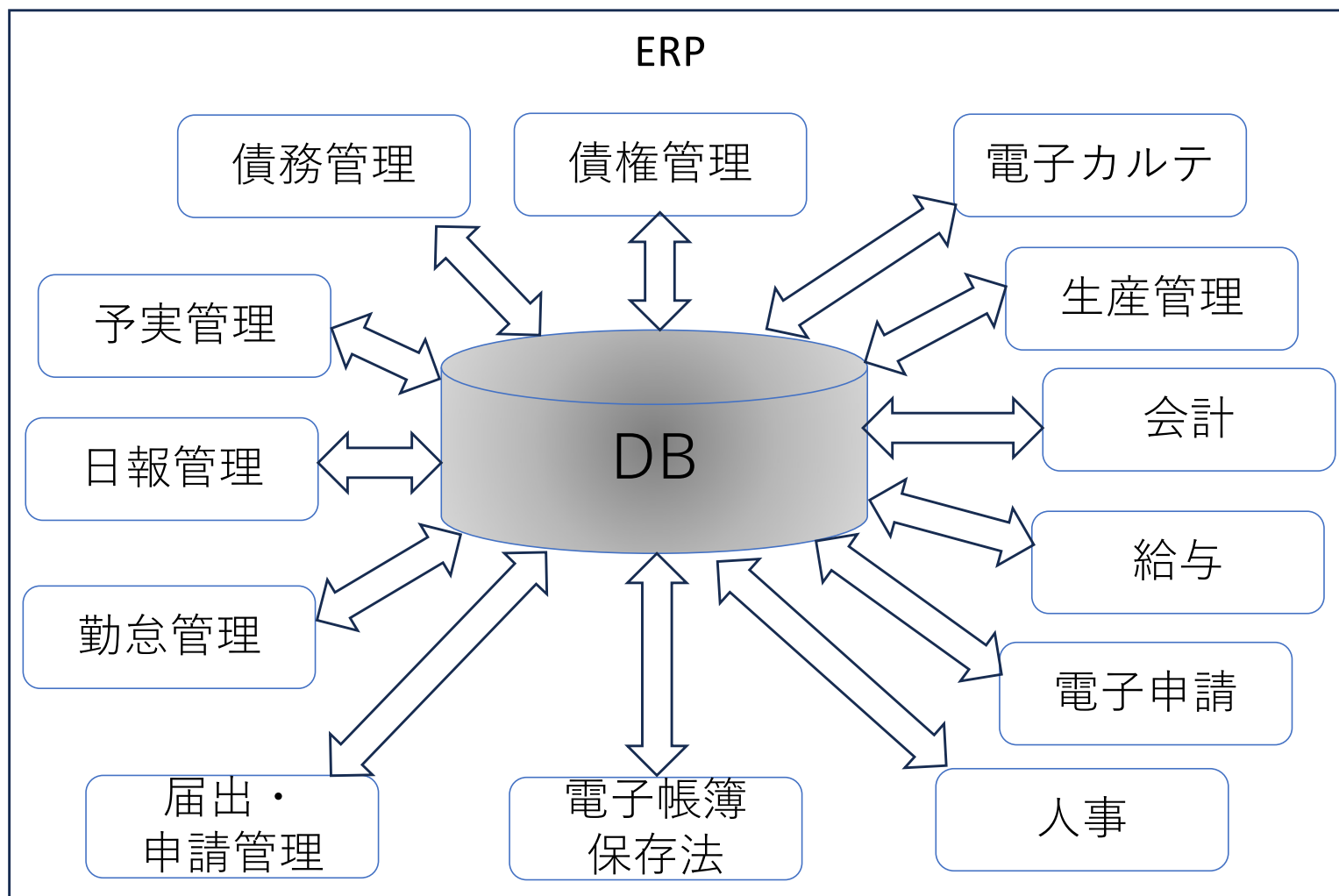
3) 業界トレンド情報の紹介

- ①インターネット ②ランサムウェア
- ③クラウドシステム

<今後目指すもの>

- ①更なるスピードUP(業務、問合せ、障害対応)を目指します。
- ②更なる品質向上を目指します。
- ③更なる経営層のデシジョンスピードUPを補助するシステム実現を目指します。

具体的には現在のシステムが全システム連動、いわゆるERP化へと進化することを目指します。



ERP:Enterprise Resource Planning

更にAIを利用した故障診断システムの構築

当社のERPデータベースにある様々な情報をクラウドのAIに投げかけることで過去取引先に導入した装置が、過去の障害や故障履歴をベースにどの部分の部品対応が必要になるか、またこのままだとどの部品が故障しどの程度の規模の被害を受けそうかの情報をアナウンスしてもらう故障診断システムの開発を目指しています。

